

9月15日(金) 研究発表第7室(722)

## リーディング教材作成へ向けて

## Material Development for Better Reading

清水 裕子(近畿大学)・濱田 佐保子(聖泉短期大学)

本発表はJACET 関西支部「教材開発」研究グループによるものであり、共同研究者は小田幸信(同志社女子大学)、菊池真理(松蔭女子学院大学)、川村欣司(大阪国際大学)、野口ジュディー(武庫川女子大学)、多田昌夫(大阪外語専門学校)、杉下恵子(大阪国際大学非常勤)である。

まず本グループの教材開発の背景にある読解指導の流れと基本方針について述べ、続いて、現在開発中の読解教材の具体的な構成・内容を紹介していく。

英語を母国語として指導している例として米国での状況を見てみると、bottom-up アプローチが中心であったが、当時の子供が成長した現在、そのアプローチが生み出した欠点が指摘されるなど、最近ではbottom-up, top-down 処理の両者をうまく活用することが注目されている。

Reading 指導の歴史的流れを大きくとらえると、心理言語学的読解モデル以前は、読解とはテキスト中心で、受身的なスキルと考えられていた。1970年代に入ると心理言語学的読解モデルが登場して、読解とは能動的な過程と考えられ、テキスト中心から読み手に焦点が置かれるようになった。さらに認知心理学において提案されたスキーマ理論が読解モデルに組み込まれて、テキストの理解は言語知識を含む様々な背景知識を活用しながら、top-down, bottom-up 処理両者の相互作用により効果的な読解活動が進むという立場をとっている(Rumelhart 1980)。

日本における指導に目を向けると、Reading は従来から重視されてきているが、精読に重点がおかれ、読むことはすなわち訳すことであるという指導が主流であると言える。読んだけれど、細部にこだわりすぎて、内容が把握できていないという場合が多く見られる。「英語で読むこと」を実感させて内容を楽しみ、ある程度の量の英文を読みこなせる力を養成することが必要ではないだろうか。Grabe(1991)はcomponent skills in reading として

1. Automatic recognition skills
2. Vocabulary and structural knowledge
3. Formal discourse structure knowledge
4. Content/world background knowledge
5. Metacognitive knowledge and skills monitoring

を挙げているが、これらの要素も組み込んだ教材の開発により、<読みのサイクルや内容とのinteractionを学習者に行わせたり、辞書に頼りすぎず、ある程度のrisk-takerになって、推測しながら、積極的に読み進めるような読解態度を読み手に形成させたい>という願いから、本グループでは研究活動及び教材開発を行ってきた。

我々が開発しているのは短大・大学教養レベル用Reading教材であり、学習者は推測しながら、内容とのinteractionを通じて積極的に読む態度を形成することを目標としている。

9月15日(金) 研究発表第7室(722)

特徴としては次のようなことが挙げられる。

1. テキストの内容はAuthentic で日本の大学生の興味をひくものであり、多様な分野に及んでいる。主に新聞や雑誌などからのものである。
2. 教材の指示文もすべて英語で与える。
3. 訳読用ではなく、タスク中心にしてスキヤニング、スキミングなどのreading skillsの学習を中心にする。練習問題は語彙と内容に関するものである。
4. Writing/Listening の活動も随時含める。
5. 一課90分単位で完了できることを配慮する。
6. 7つのトピックのもとに、それぞれ2つずつの読み物を用意。各トピックの終了後に語彙の強化、復習のための練習問題を挿入。

各課の構成はテキストを読む前に内容に興味をもたせて予測させ、関連知識を呼び起こし、テキストの大意を把握させることから、次第に深く内容を理解させ、さらには内容について自分の意見をもつことができるようにとタスクが配列されている。具体的には次のようになっている。

Vocabulary List: 難易度の高い語彙20前後をリスト・アップして品詞もつける。

Vocabulary Warm-Up: Vocabulary Listの中から10語位について辞書を引かずに文脈から推測できる練習問題。練習問題で扱えなかった語はNoteとして英語で定義を与える。英々辞書の使用に導くことも意図している。以上、語彙に関しては予習を前提とする。

Lead In: これから読む内容の背景知識を呼び起こしたり、内容への興味をかきたてることを意図している。

Text(本文): (主に500～900語)

Survey Reading: 全体に目を通させて、おおまかな内容の把握を目標とする。

Intensive Reading: 内容を確認しながら、より深く詳細に理解する。

Your Views: Lead inと関連づけたり、自分の意見を述べたりする。

Comprehension Check: 内容確認のためのクイズ。

作成した教材の内、4点は実際に教室で使用し学生に対し、本文の内容、難易度、長さまた練習問題についてはそれぞれが内容理解にどの程度役立ったか等について意見調査を行った。全般的な反応は<内容は面白いが、単語が難しい>ということであった。従ってこのテキストの目標のひとつである<内容を楽しく読めるように>に関してはほぼ成功したように思う。だが、語彙の導入には工夫したにもかかわらず、単語の難しさが読解の妨げとなっていると感じる学生が多いようであった。その理由として、テキストの語彙が難しすぎたり、未知の語彙が多すぎて導入部分(Vocabulary List)でカバーしきれていない。という場合も考えられよう。しかしそれ以上に読み手が未知語にとらわれずに読み進むという読解態度を身につけていないことも一因と考えられる。このテキストを使用することによって、次第に積極的に意味を構築していくという読解態度が形成されていくものと確信している。